

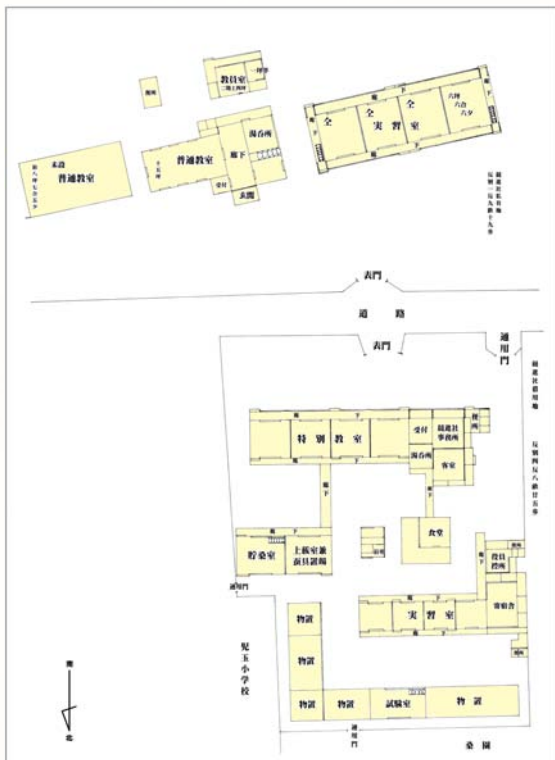
# 競進社と競進社蚕業学校



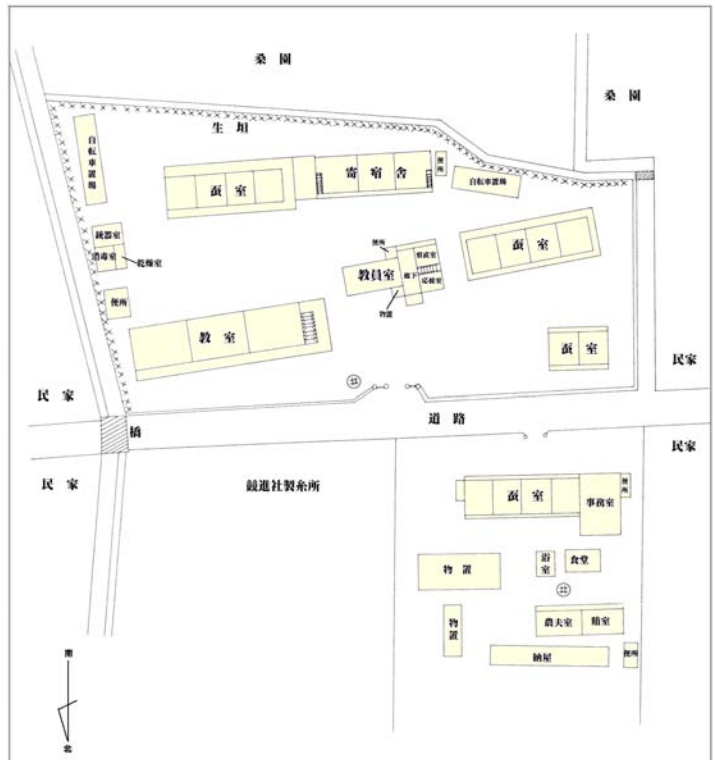
木村九蔵は、明治22年(1889)に政府よりヨーロッパの蚕業視察を委嘱されて帰国後、養蚕教育は実技伝習だけでなく、学科を加える必要性があると痛感し、学校設立に向けて準備を行った。明治27年(1894)に建築した模範蚕室の棟木銘に、「競進社講究所」と記されていることから、かなり準備が進んだものと思われる、同29年には教室を建築し、同30年(1897)2月に競進社蚕業講究所を開設した。32年の実業学校令の制定に伴い、競進社は講究所を競進社蚕業学校に改めた。初代校長は今井保一郎、その後、浦部良太郎、木村九蔵(二代)が校長となっている。大正14年(1925)には競進社実業学校となり、昭和12年(1937)より埼玉県児玉農学校となった。戦後、児玉農業高等学校となり、昭和47年(1972)には県立に移管され、県立児玉農工高等学校となり、平成7年(1995)に校名を変更し児玉白楊高等学校となった。

九蔵の設立した蚕業講究所は、蚕の飼育・桑園の管理はもとより、病理・生理・解剖を始めとして蚕業全般に通じる教育を目指し、まもなく競進社蚕業学校となり、まさにこの地は埼玉県の産業教育発祥の地となった。

左右の平面図共に上側が南である。平面図上部右側の蚕室(実習室)が模範蚕室。昭和期には南側に蚕室や教室が増築されている。



明治38年(1905) 競進社蚕業学校時代を示す平面図



昭和3年(1928) 競進社実業学校当時を示す平面図

